

2025 年度

学校名 横浜市立本町小学校

対象学年 3 年

① 学習指導案

プログラム	No. 1 1 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全70時間)	楽しく知ろう！たから発見！ 3の1 横浜はじめてすごろく
学習のねらい	本町のまちの魅力を伝えたいという思いの実現のために、すごろくをつくる活動を通して、すごろくには「作り手の伝えたいことが、すごろく遊びを楽しみながら伝えることができる」というよさがあることに気づき、どのような工夫を盛り込めばまちの魅力を伝えられるかを考え、目的の実現のために友達と協力しながら進んで取り組み、まちの一員としてこれからもまちのためにできることをしていこうとする。
学習内容	1 馬車道をたくさんの人に知ってもらうために、すごろくをつくろう 2 馬車道すごろくをつくろう 3 スペシャル5（はじめてすごろく他）をつくろう 4 すごろくランドをひらいて、たくさんの人にすごろくで遊んでもらおう
参考資料	参考用にするための、市販のすごろく
準備品	関わってくださるプロ
実施場所等	地域、学区内「馬車道」 「よこはまはじめて物語」発祥の地 三ツ沢球技場

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
2 時間	・「馬車道」のアイスクリームイベントを見学しよう	・馬車道たんけんで「まちのたから」さがしをすることで、もっと知りたい、と興味をもてるよう支援する。	○馬車道のまちの魅力を多様な角度から見直し、再発見する活動を楽しんでいる。
2 時間	・「馬車道商店組合」の方に話を聞こう	・疑問を解決することができるよう、馬車道商店会組合の方と出会えるよう支援する。	○まちを支える人の思いや努力に気付いている。
2 時間	・すごろくのつくりかたをプロに教えてもらおう	・ポプラ社のすごろくの専門家であるTさんに、すごろく作りの経験等、直接話が聞けるよう依頼する。国語で招待状を書く。	○専門家から話を聞き、課題解決に必要な情報を収集することができる。

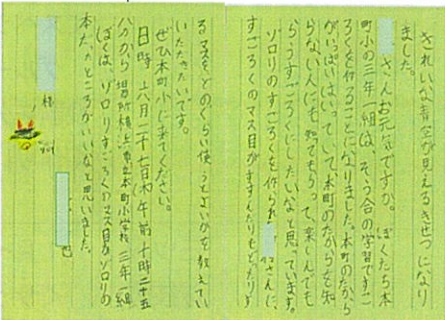
44 時間	・すごろくをつくろう 馬車道すごろく スペシャル5 サッカーチームすごろく	・何度も繰り返し試したり、アイデアを練ったりすることができるよう、学習の場や環境を整える。	○まちの「たから」や「まちの人の思い」を、すごろくのマスなどで表している。
19 時間	・すごろくランドを開こう	・自分たちがまちに関わり、まちの一員として参画したことの意義を振り返ることができるよう、遊んだ人からもらったフィードバックを生かす支援する。	○まちが大好き、という思いを大切にしながら探究的に学んだ成果に気付いている

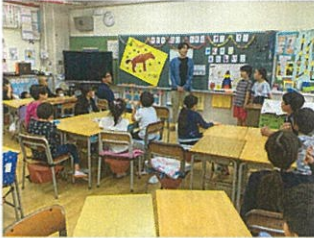
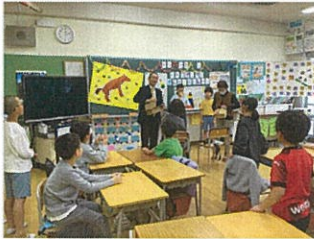
<留意点>

② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立本町小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
2時間	馬車道	馬車道のアイスクリームの日のイベントの見学に行く。 馬車道の「たから」を見つける。 ガス灯 	アイスクリームの日見学   帰校後、夢中でパンフレットを見ている。 	 馬車道商店街協同組合の方々が、子どもたちの来訪を喜んでくださり、馬車道パンフレットを提供してくれた。また、後日、アイスクリームを提供して下さるとの申し出を受けた。
2時間	馬車道 関内 ホール	馬車道に「たから」さがしに行く。 ・アイスクリームをプレゼントしてもら		

		・質問タイム		馬車道商店街協同組合山口様が、子どもたちの丁寧な質問に答えてくださり、一緒にアイスクリームを食べながら、お話ししてくださった。
1時間 ＋ 休み 時間等	教室	様々なすごろく遊びを通して、そのよさ「いいじゃん!」を見つける。	 ポプラ社「ゾロリすごろく」他、様々な楽しみながらよさを見つけ、自分たちのすごろく作りに生かそうとする。	・シートがカラフルで見やすい。 ・「このマスに止まったら2マス進む」はいいね。 ・カードの指令が面白い。 ↓ 自分たちのすごろくにも生かしたいな。
1時間	教室	ポプラ社Tさん（専門家）に招待状を書く。（国語「気持ちをこめてきてください。」）	招待状の書き方を知り、気持ちをこめて招待状を書く。	
2時間 (予定)	教室	6月27日 ポプラ社Tさんを教室に招き、すごろく作りの話を聞いたり、質問をしたりする 一緒にすごろくを楽しむ。		○プロから直接すごろくづくりのこつについて教わり、すごろく作りの活動について意欲をもっている。
44時間	馬車道 教室	6月～11月 ＜馬車道すごろく＞ グループに分かれ、役割を分担してすごろく作りに取り組む。 	 	○すごろくに入りたい情報を積極的に集め、すごろく作りのコツを生かしてグループで意欲的に取り組んでいる。 

教室	＜馬車道すごろく完成 うれしい会＞ お世話になったプロ や馬車道のまちの方、 サッカーチームのマス コットを招待して、す ごろくを披露する。 	 	○お世話になった方へす ごろくを披露し、楽しん でいる姿を見ることで、 喜びを感じている。 ○馬車道の方から「普段住 んでいるまちが、こんな に素敵な場所だとは知 らなかった」と言ってい ただき、感激していた。 ○サッカーチームの方か ら、「馬車道にいつてみ たくなった」と言ってい ただき、馬車道のよさを 伝えられて嬉しそうに していた。
教室	11月～1月 ＜スペシャル5＞ グループに分かれ、 役割を分担してすごろ く作りに取り組む。		
三ツ沢 球技場	1月～2月 ＜サッカーすごろく＞ グループに分かれ、 役割を分担してすごろ く作りに取り組む。	 	○すごろくに入りたい情 報を積極的に集め、すご ろく作りのコツを生か してグループで意欲的 に取り組んでいる。 
教室	＜120周年披露＞ お世話になったプロ や馬車道のまちの方、 サッカーチームのマス コットを招待して、す ごろくを披露する。		○家族や地域の方、他学年 の人へすごろくを披露 し、楽しんでいる姿を見 ることで、喜びを感じて いる。

				
19時間	教室	<すごろくランド> たくさんの人に遊んでももらいたいと、各学年、先生方を招待してすごろくを披露する。	 	○自慢のすごろくを、たくさんの方に披露し、楽しんでいる姿を見ることが、喜びを感じている。 

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 ○繰り返し町に関わり、すごろくに入れたい情報をたくさん集められるようにした。 ○すごろくについて知るため、市販の様々なすごろくで遊び、工夫を見つけ、すごろくづくりに生かせるようにした。 ○すごろくづくりのプロと出会い、実際に指導を受ける機会を取り入れた。活動にあたって大切なことを学んだ。 ○相手意識、目的意識をしっかりとって活動に取り組めるようにした。 ○できあがったすごろくをたくさんの人に遊んで貰い、アドバイスを貰いたいという願いを実現させるために、6年生や5年生、サッカーチームやそのキャラクターに試して貰う機会を設けた。もらったアドバイスをもとに、改善していく活動を行った。地域に開かれた本町フェスティバルでもたくさんの保護者やお客さんに遊んで貰う機会を保障した。 ○サッカーチームをテーマにしたすごろくをつくるために、チームのホームである三ツ沢球技場を訪れ、関係者エリアなどを見学して得た球技場の秘密をすごろくに取り入れた。 ○たくさんの人に遊んでもらえるよう、すごろくランドを開催し、多くの人を招待してすごろくを楽しんでもらった。
(2) 実施にあたり苦労した点 ○馬車道での町の方々との出会いから、感謝を伝えるためにすごろくをつくろう、という活動に決まるまで、一人一人の思いを大切にするために、丁寧に話し合い活動を行った。 ○すごろくづくりのプロとの出会い、そこで伝えて貰う内容について、事前に打ち合わせを

重ね、活動の意図を理解していただくよう努めた。 ○すごろくづくりの時間を確保し、グループでアイデアを出し合い、協力して活動できるようにした。 ○アドバイスをもとに改善できるよう、試して遊んでくれる相手に趣旨を理解して貰えるよう事前の打ち合わせを行った。
(3) 児童の反応 ○夢中になってすごろくをつくる活動に取り組むことができた。 ○実際に何度も馬車道を訪れ、すごろくのマスに入れたい情報を知ることができたことがよかった。 ○友達と協力すること信じ合うことで、ひとりではつくれないレベルがちがうよりよいすごろくをつくることができた。 ○意見を出し合い、伝え合うことでみんなで考えたすごろくを完成することができた。 ○活動を通してたくさんの人と出会い、アドバイスを貰うことができた。 ○遊ぶ相手を思い、遊んでくれる人の笑顔のためにすごろくをつくることができた。
(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化 ○担当教諭においては、子供達の思いに沿って先回りし、活動が進められるよう計画的に授業を行った。その都度臨機応変に、柔軟に計画を見直し、総合的な学習の時間の充実をはかった。 ○担当外教諭については、子供達の活動の様子から、その活動を価値づけ積極的に関わる姿がみられた。実際にできあがった作品で遊ぶ機会を積極的に設け、すごろくとしてだけでなく、地域などを知るツールとして有効である、と活動の意図を捉えた言葉かけをしてもらった。
(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等] ○夢中になって取り組める総合的な学習の時間の材を子どもと共に決めていくことが、1年間の長い活動を充実した物にするために必要である。 ○町の人、プロなどに会わせることで、相手意識をもって活動に本気で取り組めるようにする。 ○材について、指導者が教えるべきことと、子供達に気付かせるべきことを分けて捉えることで、活動に軽重をつけ、決められた時数の中で充実した活動になるようにする。